2022 年 2 月 17 日
日本ラドウェア株式会社

Press Release

暗号化された DDoS 攻撃を、ビジネスニーズを犠牲にすることなく防御する Radware の新機能の販売を開始

新しいアルゴリズムで暗号化された攻撃を大規模かつ高精度に防御

サイバーセキュリティおよびアプリケーションデリバリーソリューションのリーディングプロバイダーである Radware Ltd.（NASDAQ：RDWR）は、ビジネスニーズを犠牲にすることなく暗号化された DDoS 攻撃を防御する新機能の販売を 2 月 18 日から開始します。Radware の DDoS 攻撃防御ソリューションの一環となるこの新しい機能は、Radware の DefensePro(R)およびクラウド DDoS 防御サービスに搭載して提供されます。

この新機能を利用することで、企業、通信事業者、サービスプロバイダーは、SSL DDoS 攻撃に対して他に例を見ないほどの防御対策が行え、可視性と制御性を最大限に高め、暗号化された DDoS 攻撃に対するサイバー防御戦略をカスタマイズすることが可能になります。多数の暗号化機能や防御オプションを備え、高レベルなセキュリティを実現します。この機能により、ユーザーのプライバシーを犠牲にすることなく、攻撃の検知と修復、カギの管理、そしてレイテンシー低下問題の軽減が容易に行えるようになりました。

詐欺やハッキング行為の増加、同時にプライバシーに関する規制の強化により、企業は HTTPS や暗号化通信をデフォルトの通信手段として使用するようになりました。トラフィックの暗号化はセキュリティとユーザープライバシーの維持には重要なものですが、これは同時に、次世代の強力な暗号化 DDoS 攻撃にも扉も開けることになりました。この攻撃では、正規のトラフィックを装い、送信先サーバーを圧倒してパフォーマンスを低下させ、通常のユーザーが利用できないようにします。

Radware の最高執行責任者（COO）であるギャビ・マルカ（Gabi Malka）は次のように述べています。「従来の SSL 攻撃防御ソリューションでは、すべての HTTPS パケットを完全に復号化する必要があるため、これでは大規模な処理はできず、一定の遅延が発生する上に証明書の共有が必要でした。一方、Radware の SSL DDoS 攻撃防御ソリューションは、より包括的で拡張性が高く、さらに高度なセキュリティを実現します。このソリューションは複数のユーザーシナリオを考慮して構築されているため、各企業は独自のテクノロジー要件、ビジネスの優先順位、およびプライバシーのニーズに基づいて防御戦略をカスタマイズできます。」

Radware のソリューションにはキーレス SSL 防御機能が備わっており、SSL の復号化を必要とせずに、SSL 攻撃の検知、特性評価、および防御を行うことができます。このキーレス SSL 防御機能に加えて、『Selective Full SSL Protection』などのユーザーオプションも追加提供できるようになりまし

た。このオプションを使用すると、攻撃下や不審なセッションを検知したときにのみ復号化を行うため、正規ユーザーのセッションの遅延や中断を最小限に抑えられます。

Radware の SSL DDoS 防御ソリューションは、SSL と TLS の一般的なバージョンに対応し、さらに SSL ネゴシエーションフラッド攻撃、SSL 脆弱性攻撃、HTTPS フラッド攻撃、暗号化 Web 攻撃など、あらゆる主要な暗号化攻撃を防御します。詳細については、ウェビナー『ビジネスに影響をおよぼさずに SSL 攻撃を防御する方法（How to Protect from SSL Attacks Without Compromising Your Business）』をご覧ください。

2021 年 10 月に米国本社が発表した『第 3 四半期 DDoS 攻撃およびアプリケーション攻撃レポート』Q3 DDoS and Application Attack Report 最新のレポートでは、Radware の DDoS 攻撃防御ソリューションでブロックされた悪意のある攻撃の数は、2021 年の年初来 9 ヶ月間では、2020 年の同期間よりも 44%増加しました。また、APAC における第 3 四半期の企業 1 社あたりに受けた攻撃数の大半も、Radware の攻撃防御ソリューションがその威力を発揮しました。

Radware のヤニフ・ホフマン Yaniv Hoffman （Vice President and Managing Director, Radware APAC）は次のように述べています。

「昨今、DDoS 攻撃がさらに増加しています。これらは、ベクトル、地理的な場所、業界に関係なく、さらにターゲットを絞った手法で巧妙化しています。企業が、よりステルス性、複雑性の増した DDoS 攻撃に対処するためには、多層防御なセキュリティ対策が大変重要となってきます。セキュリティと可用性が打撃を受けると、その先にある顧客体験、ブランド、及び収益までも打撃を受けてしまうのです。」

以上

Radware について

Radware®（NASDAQ：RDWR）は、物理環境、クラウド環境、およびソフトウェア定義データセンター向けのサイバーセキュリティおよびアプリケーションデリバリーソリューションのグローバルリーダーです。数々の受賞暦を誇るソリューションポートフォリオで、世界中の企業にインフラストラクチャ、アプリケーション、企業用 IT 防御および可用性サービスを提供して、デジタルエクスペリエンスの安全性を確保しています。Radware のソリューションは、世界の企業や通信事業者に採用されており、コスト削減と同時に市場の課題への迅速な対応、事業継続および生産性の最大化に貢献しています。詳細については、Radware の Web サイトをご覧ください。

【一般からのお問い合わせ先】
日本ラドウェア株式会社　マーケティング担当
Marketing_JP@Radware.com
TEL：03-4334-8700

【報道関係からのお問い合わせ先】
日本ラドウェア株式会社　広報事務局
radware-pr@alsarpp.co.jp
TEL：03-4405-8773

Radware では、次のように皆様にご参加いただけるコミュニティをご用意しておりますので、是非ご参加ください。Facebook、LinkedIn、Radware Blog、Twitter、YouTube、Radware Mobile for iOS および Android。

本プレスリリースおよび Radware の『第 3 四半期 DDoS 攻撃およびアプリケーション攻撃レポート』は、情報提供のみを目的としています。これらの資料は、過去、現在、または将来における Radware の業績や実績の指標として示すものではありません。

Radware および日本ラドウェアでは、本ドキュメントに記載されている情報は、発行日時点ですべての資料的事項において正確であると考えています。ただし、この情報は明示的、法定的、または黙示的な保証なしに提供されるものであり、予告なく変更されることがあります。
本プレスリリースに記載されている Web サイトまたはハイパーリンクの内容は、情報提供を目的としたものであり、その内容は本プレスリリースの一部ではありません。

###

免責条項について

本プレスリリースには、1995 年米国私募証券訴訟改革法に規定される『将来の見通し』が含まれています。Radware の計画、見通し、信念、または意見に関する記述を含む、ここで記載されている歴史的事実の記述ではないものはすべて、将来の見通しに関する記述です。一般に、将来の見通しに関する記述は、「信じる」、「期待する」、「予測する」、「意図する」、「推定する」、「計画する」、および「思う」、「はず」、「しそうな」、「おそらく」などの類似の表現、または将来の条件付き動詞によって識別できます。たとえば、企業はステルス攻撃やより複雑な DDoS 攻撃を防御するためには、より詳細な検知機能と多層防御が必要である、と記述がある場合、当社は将来の見通しを伝えていることになります。このような記述は将来の事象を扱うものであるため、さまざまなリスクや不確実性を伴い、このような将来の見通しに関する記述によって表現または暗示される実際の結果は、Radware の現在の予測や見積もりとは大きく異なる場合があります。このような相違を引き起こす要因としては、次のようなものが挙げられますが、これらに限定されるものではありません。世界的な経済状況の影響および当社製品の市場での評価変動。自然災害や新型コロナ感染症（COVID-19）の流行などの公衆衛生上の危機。事業を効果的に拡大する当社の能力。当社の新規および既存のソリューションのタイムリーな提供と顧客の受容状態。買収、またはその他投資に関わるリスクと不確実性。戦争行為やテロ行為の開始または拡大など、世界のさまざまな地域における経済的、政治的不確実性や脆弱性の影響。サイバーセキュリティおよびアプリケーションデリバリソリューションの市場、および業界全般における激しい競争、ならびに競争環境の変化。政府規制の変更。ホスティングサービス、または当社の社内ネットワークシステムの停止、中断または遅延。 オープンソースおよびサードパーティライセンスの遵守。当社の無形資産または業務上の信用が損なわれるリスク。当社製品を販売する独立系ディストリビューターへの依存。当社ソリューションの販売サイクルの長期化。外国為替レートの変化。当社製品の欠陥やエラーが未検知となること、または当社製品が悪意のある攻撃の防御に失敗すること。コンポーネントや製造設備の可用性。当社のハードウェアプラットフ

ォームおよび主要アクセサリーのコンポーネントを提供するベンダーの能力。当社の独自テクノロジーを保護する当社の能力。第三者による知的所有権侵害の申し立て。税法の変更。現金および流動性のある投資に対する投資目的を実現する当社の能力。優秀な人材を引きつけ、育成し、確保し続ける当社の能力。 当社がほとんど、あるいはまったく制御できないその他の要因およびリスク。このリストは、実際の結果が異なる原因となる可能性のある主な要因のみを特定することを目的としています。Radware に影響をおよぼすリスクおよび不確実性の詳細については、米国証券取引委員会（SEC）に提出された Radware の年次報告書（Form 20-F）、および SEC に提出または提供された報告書に Radware が随時記述しているその他のリスク要因を参照してください。将来の見通しに関する記述は、それが作成された日時点でのみ述べられていることであり、適用法で要求される場合を除き、Radware は、そのような記述がなされた日以降の事象または状況を反映させるために、将来の見通しに関する記述を改訂または更新することを約束するものではありません。Radware の公開ファイルは、SEC の Web サイト（www.sec.gov）、または Radware の Web サイト（www.radware.com）から入手できます。